様式2 令和元年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価表

学校教育目標

人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる ・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる ・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】

○生徒にとって楽しく行きがいのある学校 ○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校

【目指す児童・生徒像】 OELい判断力と粘りづよい実践とたくましい創造力をもった生徒

○正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒 ○健やかな身体と豊かな情操をもった生徒 ○高い知性とたくましい創造力をもった生徒

【目指す教師像】 ORICE

○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師 ○ 自己研鑚に励み授業改善に取り組む教師

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

本校の教育目標に基づき、中学校教育を通じて中学校卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」(「社会人基礎力」、経済産業省)とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。

また、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育をし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会を行うとともに、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。

前年度までの学校経営上の成果と課題

命の教育、インクルーシブ教育、国際理解教育の3点の推進に重点を置いて学校の運営を行っている。前年度はインクルーシブ教育についての教員の理解を深め、より一層連携を密にした結果、集団に馴染めなかった生徒も、取り組みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、体験的な学習活動のカリキュラムマネジメントを行うと同時に、保護者や地域とより協働した活動をしていくことが課題である。

みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、体験的な学習活動のカリキュラムマネジメントを行うと同時に、保護者や地域とより協働した活動をしていくことが課題である。						
柱	具体的方策		自己評価		学校関係者評価	
		取組指標	価 成果指標	課題と次年度以降の対策	評価	コメント
確かな学力の向上	・各教科等で生徒の自己有用感の 育成に係る指導場面を意図的に 設定し、生徒の主体的で対話的な 学習活動を促し、学びを深める。	4	3	昨年度より、主体的・対話的・深い学びの授業のどの場面かを記入する本校独自の学習指導案を活用している。その結果100%の教員が指導場面を意図的に設定できたと回答した。また東京教師道場を受講している教諭が2名おり(うち1名はリーダー)、模範となる学習指導案をつくりあげた。これをもとに研究授業を行うとさらに意図的に主体的・対話的・深い学びの指導場面が設定できる。	適	生徒が、授業の中で主体的・対話的・深い学びができるために、先生方が学校外でも、よく研修をしていることがわかります。継続して推進をしてほしい。
	・清瀬市学力観に基づき、論理的な思考力、基礎的・基本的な力、 社会と関わる力、及びそれらを相 互に関連付けた力を育成する。	4	2	授業の中で、相手を納得させる説明をさせた。同時に基礎的・基本的な学びを修得させ、教科の良さを生かした対話ができた。しかし学力の二極化がありより基礎的・基本的な学びの定着にさせることは課題である。さらに相互に関連付けた力を育成するためには、教科の横断的な学習活動を実践していく。		引き続き、学習活動において論理的な思考力、基礎 的・基本的な力、社会と関わる力、及びそれらを相互に 関連付けた力を育成しいほしい。特に基礎的・基本的な 力の育成を重視してほしい。
豊かな心の育成	・第1学年で認知症サポーター講座、 救急救命講習、JICA、第2学年で職場 体験(介護施設・保育所等)、第3学年で 赤ちゃんのチカラPJ、JICAを「命と人権 教育」として実施する。	4	3	弁護士によるいじめ防止授業、救急救命講習、国立ハンセン病資料館の方の講演会、赤ちゃんのチカラプロジェクトを通して命の教育と人権教育に取り組んだ。また本年度も、認知症サポーター養成講座も実施することができた。 今後も継続して取り組み、生徒の社会性、人間関係能力の育成に取り組む。	適	命の教育については、最優先として取り扱うものである。保護者や地域の方にも積極的な参加を促していき、 地域全体で共有すべきである。
	・体験学習のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜くカ」の育成に置き、生徒の主体性を育てる。	4	4	育成を目指す資質・能力を明確にしたことで、体験的な学習において教員の生徒へのおらいと指導が一本化された。校外学習や修学旅行そして職場体験の事後学習において、生徒の作文の中に3つの力についての記述がほとんどの生徒にあった。今後も継続して取り組み、生徒の主体性を育む取組を行う。	適	生徒がねらいについて作文に記述するということは、 ねらいが達成されたということである。教員側のねらい の説明が統一されており、生徒も一丸となって体験でき ている。
健やかな体の育成 本校の特色① 本校の特色②	・外部講師や外部指導員による講演や実技指導の機会を設ける。	4	3	オリンピック・パラリンピック教育で、ソフトボールでオリンピック金メダリストのお話を聞き、体験をすることができた。またJICAで海外派遣した経験のおる方をまねき、国際理解教育を推進することができた。部活動では、外部指導員による実技指導も行っており成果も出ている。	適	たくさんの外部講師、外部指導員を学校に取り入れ、 生徒の指導にあたっていることはありがたい。このよう な素晴らしい取組を、地域の方や保護者にも、案内をし てほしい。
	・セーフティ教室や薬物乱用防止 教室を外部講師の招へいや生徒 会活動などを通して実施し、生徒 の主体性を育てる。	4	3	セーフティ教室では、薬物乱用防止教室を行い、明治薬科大学の先生に来校して頂き「薬物について」の講演会を行った。生徒たちが主体的に薬物の恐ろしさ、そしてその依存性について専門的な知識を学び学習を深めた。	適	セーフティ教室は、保護者も学ぶことが多くある。保護者もたくさんの専門的な知識等を学びたいと考えており、地域の方や保護者にも、案内をしてほしい。
	・外部機関との連携を深め、生徒 や保護者を公的な支援から孤立し ないようにする。	4	4	SC、SSW、子ども家庭支援センター、教育相談室、小平児童相談所、民生児童委員、主任児童委員、青少協、健全育成委員との連携を定期的にとり、困り感のある生徒・保護者を支援へとつなげることができた。	適	困り感のある生徒・保護者を孤立させないことは、生 徒の安全の確認になる。今後も外部機関と連携し、生 徒の困り感を少なくしてゆく取組を継続する。
	インクルーシブ教育の一環として、 各教科及び行事、部活動等、様々 な場面を利用して交流及び共同学 習を行う。	4	4	4月当初から、特別支援学級の生徒は交流クラスを決めている。教科は幅を広げている。このことにより特別支援学級から通常学級へ転級を望む生徒も出ている。運動会や音楽祭にも参加し交流・共同学習ができている。	適	様々な生徒に対して、個に応じた支援が出来ている。 清瀬中学校は、清瀬市に一つしかない特別支援学級設 置校であり、引き続き推進してほしい。
	・学校行事や体験学習における保 護者との協働を推進する。	4	2	毎年、運動会や音楽祭、公開授業では協働の場面があった。本年度は職場体験先を探し巡回までしていただきいた。夏季休業中にアフリカの先生が本校に来校した際、対応をして頂いた。今後は、道徳授業地区公開講座の講師選定依頼をしたいと考えている。協働する保護者や地域の方を広げていくことが課題である。		各行事、取組で保護者・地域の方の参画や協働は定着している。学校支援本部の設置とともに、評価基準が高くなったとも考えられる。より多くの方が協働してゆくことが課題といえる。
	・PTAが参画した行事を企画実施 するとともに、本年度設置した学校 支援地域本部との役割を明確にす る。	4	3	各種行事で、PTAが参画した行事を企画実施することは、以前より定着している。また学校支援本部は本年度設置された。本校の保護者以外でも、本校との協働ができることが、学校そして地域の活性化になることを示していく。	適	これまでの取組を維持し、少しずつでも取組を増やしていってほしい。また青少協とは美化デーの他にアフリカの先生方が本校を訪問した際に昨年に続き協力してもらった。この体制をより確実なものにしていってほしい。